

Kansai Economic Insight Monthly

2019/10/25

Vol.78 September/October

▼ APIR “ Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼レポート公開時期は毎月第 4 週を予定しています。

▼執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR 数量分析センター長)、KARAVASILEV Yani (APIR 研究員)及び豊原法彦(関西学院大学教授)、Cao Thi Khanh Nguyet(関西学院大学講師)、野村亮輔、車競飛(APIR インターン)です。

▼本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドとCI,CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	10
中国景気モニター	11
主要月次統計	15
Release Calendar	16

要旨

- 景気は足下悪化・先行きは下げ止まりの兆し※ -

- ✓ 8月の生産(季節調整値)は2カ月ぶりの前月比マイナス。近経局は生産の基調判断を「生産は緩やかな持ち直しの動きに一服感」と前月から下方修正した。
- ✓ 9月の貿易収支は4カ月連続の黒字。輸出入とも前年同月比プラスだが、台風の影響で急減した昨年9月からの反動によるところが大きい。
- ✓ 9月景気ウォッチャー現状判断DIは、2カ月連続の前月比改善。増税時前の駆け込み需要を現状判断DIで今回と前回増税時前を比較すれば、今回は増税1カ月前に大きく上昇しているが、全体としてみれば低調。駆け込み需要の影響は限定的と思われる。
- ✓ 7月の関西2府1県のコア賃金指数は2カ月ぶりに前年比増加だが、実質現金給与総額は5カ月連続で同減少。
- ✓ 8月の大型小売店販売額は2カ月ぶりに前年を上回った。高額品の売り上げが伸び、百貨店はプラスに影響した。一方、天候不順で季節商品が伸び悩み、スーパーはマイナスに寄与した。
- ✓ 8月の新設住宅着工戸数は2カ月ぶりの前年比減少。持家は増加したが、貸家と分譲は減少した。前回増税時に比して今回の駆け込み需要は限定的である。
- ✓ 8月の求人倍率は足下依然悪化傾向にあるが、先行きは改善の兆しがみられる。完全失業率は3カ月連続で改善しており、労働需給は引き締まっている。
- ✓ 9月の公共工事請負金額(季節調整値)は2カ月ぶりに前月比減少した。結果、7-9月期は2四半期連続の前期比減少だが、自然災害の影響もあり他地域については今後の拡大が見込まれる。
- ✓ 9月の関空の外国人入国者数は前年比+93.5%と大幅増加したが、17年比では+5.1%に留まった。日韓関係の悪化の影響には引き続き注視していく必要がある。
- ✓ 7-9月期GDP成長率は前年比+6.0%と過去最低の伸び。9月、社会消費品小売総額は前年比安定的に推移し、工業生産は前月からやや加速した。一方、累積固定資産投資は前月からやや減速。
- ✓ 米中貿易摩擦について、10月に第1段階合意が両国で形成されたものの、先行きについては大きな不透明感が漂っている。

【関西経済のトレンド】

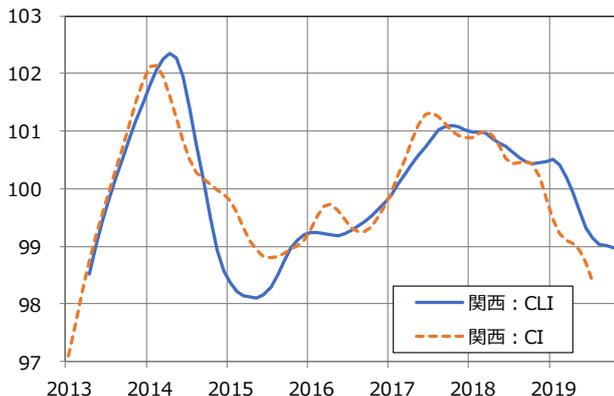
	2018年				2019年								
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生産	↘	↗	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↗	↘	↗	↘	
貿易	↘	↗	↘	↘	↘	↗	↘	↘	↘	↗	↗	↗	↗
センチメント	↗	↗	↗	↘	↘	↗	↘	↗	↘	↗	↘	↗	↗
消費	↘	↗	↘	↗	↘	↘	↗	↗	↗	↗	↘	↗	
住宅	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↘	↗	↗	↘	
雇用	↗	↘	↘	↘	↘	↗	↗	↗	↘	↘	↘	↘	
公共工事	↘	↘	↗	↘	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗
中国	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↘	↗	↘	↘	↗

(*トレンドの判断基準)

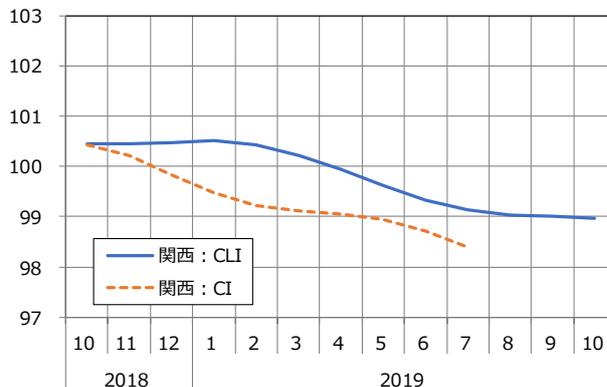
- ・ **生産**：近畿経済産業局『近畿地域域工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・ **公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作 CLI)の推移】

CI一致指数・試作 CLI の推移(2013年1月~2019年10月)



直近1年間のCI・CLIの推移(2018年10月~2019年10月)



【鉱工業生産動向】

(1) 関西の生産動向

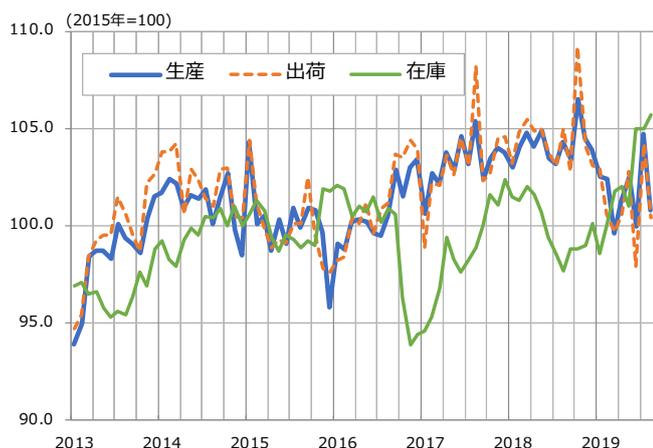
関西 8 月の鉱工業生産動向(速報値: 季節調整済、2015 年=100)を見ると、生産は 100.8 で前月比-3.7%、出荷は 100.4 で同-3.6%と、それぞれ 2 カ月ぶり大幅減少した。在庫は 105.7 で、同+0.7%と 2 カ月ぶりの増加。近畿経済産業局は同月の基調判断を、「生産は緩やかな持ち直しの動きに一服感」と前月から下方修正した。

結果、7-8 月の生産は、4-6 月期平均比+1.5%増加し(4-6 月期は前期比-0.2%)、3 四半期ぶりの増加が見込まれる。

8 月の生産指数を業種別にみると減産となったのは、電気・情報通信機械工業(前月比-10.1%、5 カ月ぶり)、汎用・業務用機械工業(同-7.5%、2 カ月ぶり)、電子部品・デバイス工業(同-12.0%、2 カ月ぶり)等であった。一方、増産となったのは、金属製品工業(同+9.1%、2 カ月ぶり)、石油・石炭製品工業(同+16.8%、3 カ月連続)、食料品・たばこ工業(同+0.1%、2 カ月連続)等であった。

なお、生産と強い関係がある日銀の実質輸出(季節調整済、2015 年=100)を見ると、8 月(確報値)は 105.8 で、前月比-6.4%と 3 カ月ぶりのマイナス。

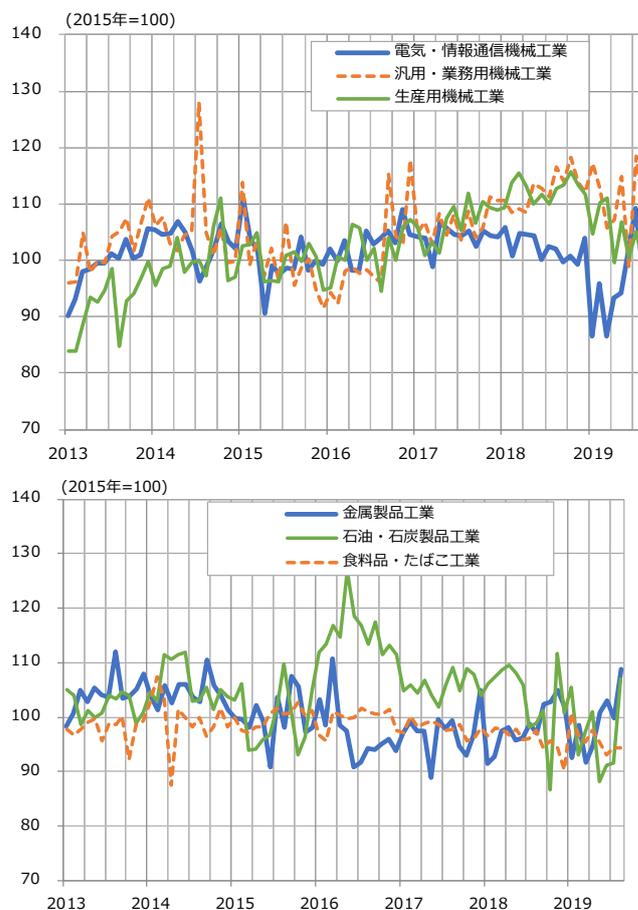
関西の鉱工業生産動向の推移(2013 年 1 月~2019 年 8 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2013 年 1 月~2019 年 8 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

(2) 全国の生産動向

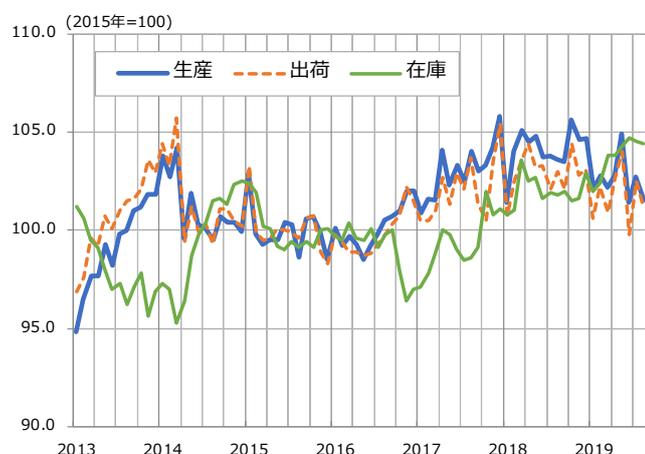
全国 8 月の鉱工業指数(確報値: 季節調整済、2015 年=100)を見ると生産は 101.5 で前月比-1.2%、出荷は 101.2 で同-1.3%と、それぞれ 2 カ月ぶりに低下した。在庫は 104.4 で同-0.1%と、2 カ月連続で低下した。

8 月の生産指数を業種別にみると、鉄鋼・非鉄金属工業(前月比-5.0%)、生産用機械工業(同-2.7%)、自動車工業(同-1.1%)等が減産となった。一方、食料品・たばこ工業(同+2.1%)、化学工業(除、無機・有機化学工業)(同+4.0%)、電子部品・デバイス工業(同+4.5%)等が増産となった。

なお、製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、9 月は前月比+1.9%と増産が、10 月は同-0.5%と減産が予測されている。9 月の生産が実現すれば、7-9 月の生産は前期

比-0.5%と2四半期ぶりの減産となろう。

全国の鉱工業指数の推移(2013年1月~2019年8月)



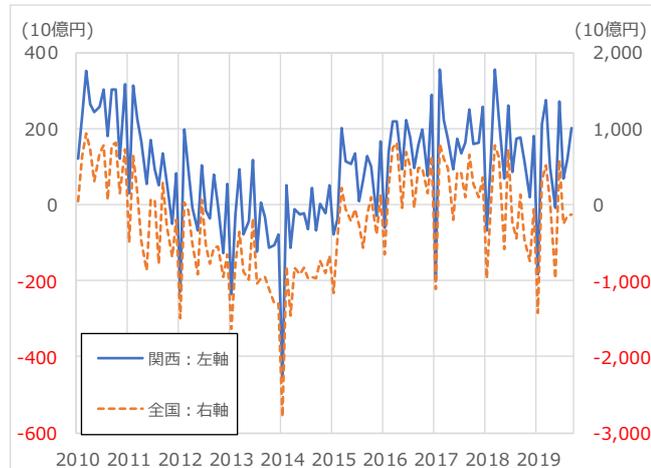
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西9月の貿易収支は+2,011億円と4カ月連続の黒字となった。輸出額は11カ月ぶりの前年同月比プラス。輸入額も5カ月ぶりの同プラスとなった。輸出入の合計である貿易総額は同+28.7%(前月:-11.8%)と10カ月ぶりに拡大した。しかし、昨年9月は大型台風で関西国際空港が一時閉鎖した影響が大きい。台風により輸出入とも大幅に減少したため(同-24.8%)、本年9月の高い伸びには注意が必要。なお、2017年9月と比較すると、輸出入とも減少し、貿易総額は-3.2%縮小した。

関西・全国の貿易収支の推移(2010年1月~2019年9月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」

また、全国9月の貿易収支(速報値)は-1,230億円となり、関西とは逆に3カ月連続の赤字となった。貿易総額は5カ月連続で縮小している(前年同月比-3.4%)。

(2) 輸出

関西9月の輸出額(速報値)は1兆4,151億円で前年同月比+27.5%増加(11か月ぶりのプラス)した。ただし、2017年9月と比較すると、-4.5%縮小した。財別にみれば、主に半導体等電子部品(同+94.9%、9月として過去最高額)や遊戯用具(同+319.2%)が増加した。なお、2019年度上半期(4-9月)の輸出は前年同期比-3.7%減の8兆1,025億円。前年同期を下回るのは2期連続である。

なお、日銀の実質輸出(季節調整値、2015年平均=100)によると、9月(速報値)は113.7となり前月比+7.5%と増加し、2カ月ぶりのプラス。

関西・全国の輸出の推移(2010年1月~2019年9月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」

全国9月の輸出額(速報値)は6兆3,685億円で、前年同月比-5.2%と10カ月連続の減少。財別にみれば、主に自動車の部分品、原動機、半導体等製造装置等が減少した。

(3) 輸入

関西9月の輸入額(速報値)は1兆2,140億円で、6カ月ぶりに前年同月比+30.2%増加したが、一昨年比でみると-1.5%減少した。財別にみれば、医薬品(9月として過去最高額)、通信機等が増加した。

なお、2019年度上半期を前年同期と比較すると、輸入額(7兆3,504億円)は5期ぶりのマイナス(-0.9%)。

日銀の実質輸入(季節調整値、2015年平均=100)によると、9月(速報値)は103.5となり、前月比+0.0%と増加し、2カ月ぶりのプラス。

全国9月の輸入額(速報値)は6兆4,915億円で、前年同月比-1.5%と5カ月連続の減少となった。財別にみれば、原油、石油製品、石炭等が減少した。

関西・全国の輸入の推移(2010年1月~2019年9月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(4) 関西の地域別貿易

関西9月の貿易収支を地域別にみると、対アジア(含中国)の貿易収支は+2,123億円と8カ月連続の黒字となった。前年同月比でみると黒字幅は+6.4%と7カ月ぶりに拡大したが2017年9月に比すると-33.1%縮小した。輸出(9,327億円)は11カ月ぶりにプラス(同+24.5%、17年9月比-9.0%)。財別にみれば、半導体等電子部品、科学光学機器等が増加した。輸入(7,204億円)は2カ月ぶりのプラス(同+31.1%、17年9月比+1.8%)。主に通信機、半導体等電子部品等が増加した。対韓輸出管理の厳格化の影響は今のところ限定的とみている。

うち、対中貿易収支は-576億円と3カ月連続の赤字となった。赤字幅は前年同月比-16.2%縮小したが、17年9月比+172.5%拡大した。輸出(3,300億円)は13カ月ぶりのプラス(同+26.9%、17年9月比-14.8%)。財別にみると、半導体等電子部品、科学光学機器等が増加した。輸入(3,876億円)

は2カ月ぶりのプラス(同+17.9%、17年9月比-5.1%)。財別にみると、通信機、がん具及び同附属品等が増加した。

対米貿易収支は+1,087億円の黒字となっており、黒字幅は前年同月比+88.6%と拡大した。輸出(2,024億円)は2カ月ぶりのプラス(同+42.1%)。財別にみれば、遊戯用具、建設用・鉱山用機械等が増加した。輸入(937億円)は2カ月連続のプラス(同+10.5%)。財別にみれば、科学光学機器、医薬品等が増加した。なお、一昨年と比較すると、貿易収支は+58.7%、輸出は+7.7%、輸入は-21.5%であった。

対EU貿易収支は-127億円と2カ月ぶりの赤字となった。輸出(1,509億円)は2カ月連続のプラス(前年同月比+32.7%)。財別にみれば、遊戯用具、無機化合物等が増加した。輸入(1,636億円)は5カ月ぶりのプラス(同+122.4%)。財別にみれば、医薬品、たばこ等が増加した。なお、一昨年と比較すると、貿易収支は-13.3%、輸出は-3.6%、輸入は-4.5%であった。

【消費者センチメント】

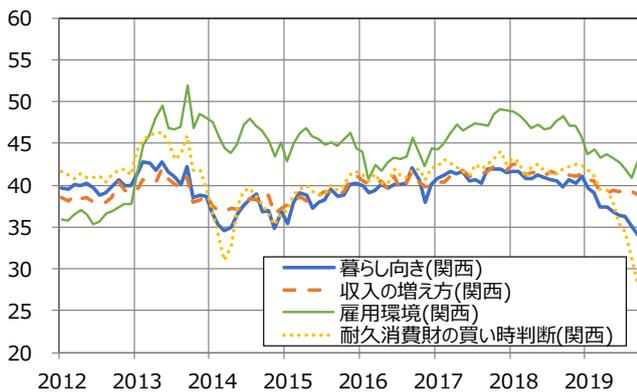
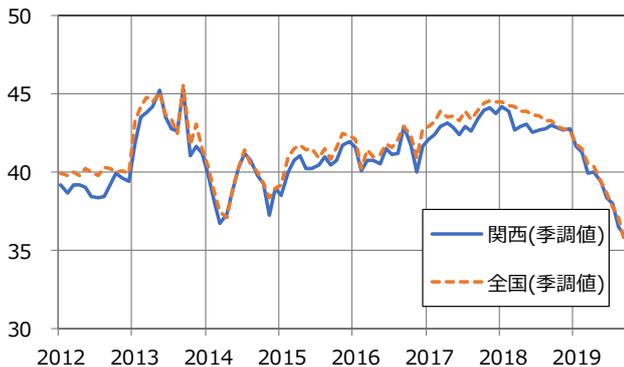
(1) 消費者態度指数の動向

関西9月の消費者態度指数(季節調整値:APIR推計)は36.0と前月比-0.6ポイント低下し、5カ月連続の悪化となった。同指数を構成する4指標のうち3指標が前月から悪化した。耐久消費財の買い時判断指数(27.9)は前月比-3.1ポイントと、10カ月連続の悪化。暮らし向き指数(34.0)は同-0.9ポイントと、5カ月連続の悪化。収入の増え方指数(38.8)は同-0.4ポイントと、2カ月連続で悪化した。一方、雇用環境指数(42.9)は同+2.0ポイントと、5カ月ぶりに上昇した。

全国(季節調整値)は35.6と前月比-1.5ポイント低下し、12カ月連続で悪化した。結果、2013年の調査方法変更以降、最低水準を更新。統計作成開始以降では、11年6月(35.2)以来、8年3カ月ぶりの低水準となった。消費増税直前に加え、世界経済の不透明感の強まりが消費者心理を冷やしているようである。同指数を構成する4指標全てが前月より悪化した。耐久消費財の買い時判断指数(28.1)は同-3.6ポイントと、9

カ月連続の悪化。暮らし向き指数(33.9)は同-0.9ポイント、雇用環境指数(41.5)は同-0.7ポイントと、いずれも5カ月連続の悪化。収入の増え方指数(38.7)は同0.8ポイントと、2カ月ぶりに悪化した。結果、内閣府は基調判断を「弱まっている」と7カ月連続で据え置いた。

消費者態度指数の推移(2010年1月~2019年9月)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西9月の景気ウォッチャー現状判断DI(季節調整値)は50.4と前月比+5.1ポイント上昇し、2カ月連続の改善となり、また10カ月ぶりに50を上回った。インバウンド関連ではラグビーワールドカップによる効果がみられる。また消費増税を控えて、日用消耗品などの駆け込み需要がみられる。

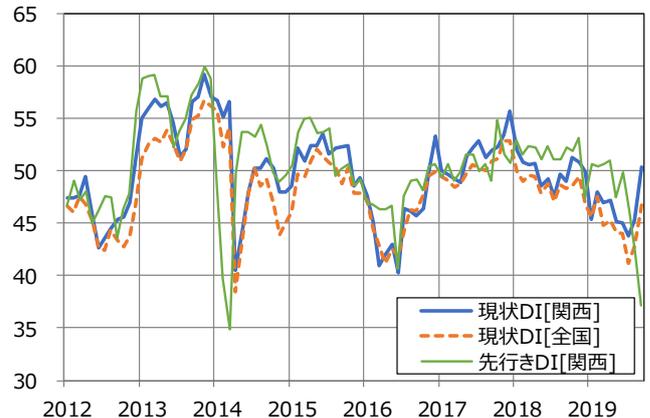
全国の同指数は46.7と前月比+3.9ポイント上昇し、2カ月連続で改善した。消費増税前の駆け込み需要が関連業界の景況感を押し上げたようである。

先行き判断DI(季節調整値)は、関西で37.2と前月比-5.1ポイント低下し、3カ月連続の悪化。消費増税実施による悪

影響、米中貿易摩擦や日韓関係悪化に対する不安の声が依然としてみられる。

全国は前月比-2.8ポイント低下し36.9と3カ月連続で悪化した。

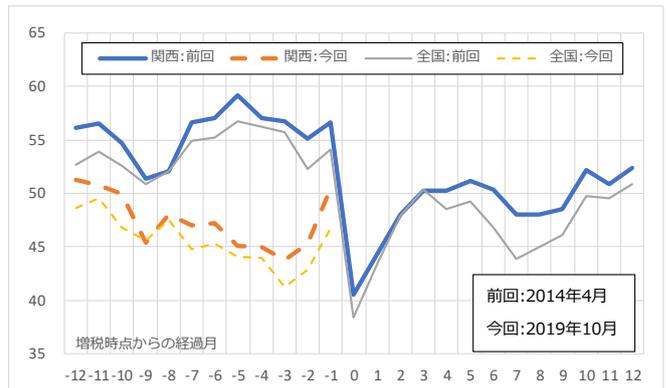
景気ウォッチャー調査の推移(2010年1月~2019年9月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

消費増税時前の駆け込み需要を景気ウォッチャーの現状判断DIで今回(2019年10月)と前回(14年4月)とで比較する。今回の増税1カ月前は関西、全国ともに大きく上昇しており、特に関西の方が全国よりも上昇幅は大きい。しかし、全体としてみれば、今回は前回よりも低調であるため、駆け込み需要の影響は限定的であるようである。

現状判断DI 消費増税時前の比較: (2014年4月・2019年10月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

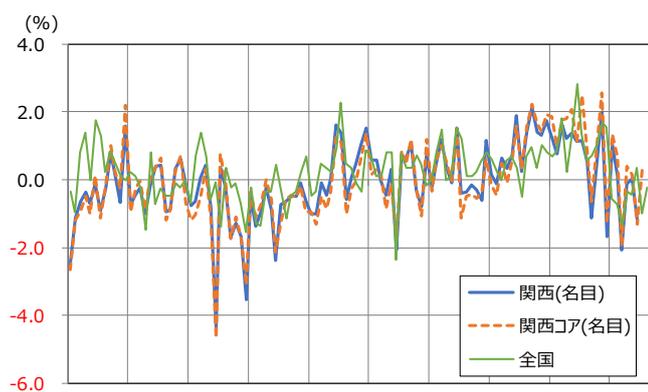
【所得・個人消費】

(1) 現金給与総額

7月の現金給与総額を公表府県別に見ると、兵庫県が前年同月比+5.2%(24カ月連続)、和歌山県が同+1.2%(6カ月

ぶり)と、それぞれ増加した。一方、京都府は同-2.9%(2カ月ぶり)、大阪府は同-1.2%(5カ月連続)、滋賀県は同-0.9%(3カ月ぶり)とそれぞれ減少した。京都・大阪・兵庫の加重平均をとった7月の「関西コア」賃金指数(APIR 推計)は前年同月比+0.4%増加し、2カ月ぶりに改善。物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた7月の実質現金給与総額(実質賃金)は同-0.3%と5カ月連続の減少。

現金給与総額の推移(2010年1月~2019年8月)



(注)関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)は APIR 推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011年平均)で加重平均。(出所)厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成

全国8月の現金給与総額(確報値)は、前年同月比-0.1%小幅減少し、2カ月連続のマイナス。内訳を見ると、所定内給与は同+0.1%、所定外給与は同+0.1%と、いずれも2カ月連続で増加。特別に支払われた給与は同-4.8%と2カ月連続で減少した。また、現金給与総額から物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた8月の実質現金給与総額は同-0.5%と8カ月連続の減少となった。

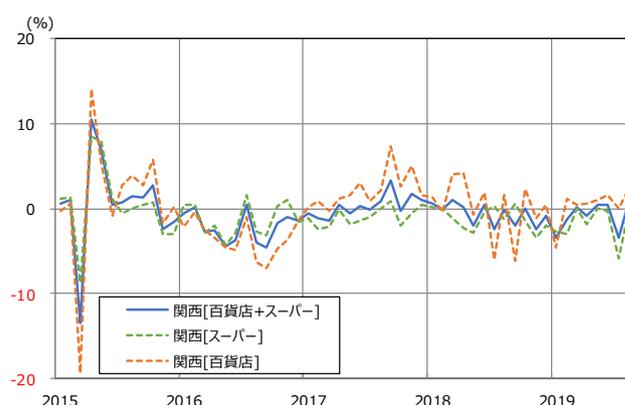
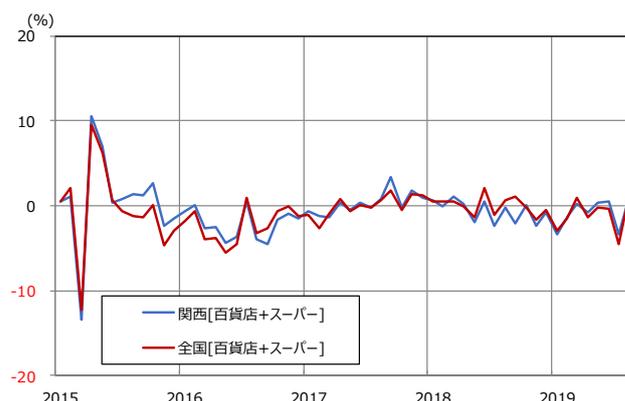
(2) 大型小売店販売額

関西8月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は3,072億円となり、前年同月比+0.8%と2カ月ぶりに前年の水準を上回った。うち、百貨店は同+2.4%と、7カ月連続のプラス。国内客による宝飾品等の高額品の売り上げがプラスに影響した。スーパーの販売額は前年同月比-0.2%と、3カ月連続のマイナス。月後半は天候不順がマイナスに影響し、農産品や水産品、季節品が伸び悩んだ。

なお、9月の関西百貨店免税売上高(日銀大阪支店)は同+30.6%大幅増加し、8カ月連続のプラス。しかし、昨年9月の大型台風による売り上げの落ち込み(同-12.5%)からの反動が大きく、17年9月と比較すれば+14.3%にとどまっている。一件当たりの売上単価は前年同月比+5.7%と3カ月連続のプラスとなった(17年比-6.5%)。

全国8月の大型小売店販売額(全店ベース)は1兆5,897億円となり、前年同月比+0.9%と5カ月ぶりのプラス。うち、百貨店は同+1.5%と14カ月ぶりのプラス。スーパーは同+0.7%と2カ月ぶりのプラス。なお、小売業販売額指数(季節調整済、後方3カ月移動平均)は前月比+0.8%と2カ月ぶりのプラス。経済産業省は小売業の基調判断を「一進一退」と前月から据え置いた。

大型小売店販売額の推移(2010年1月~2019年8月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

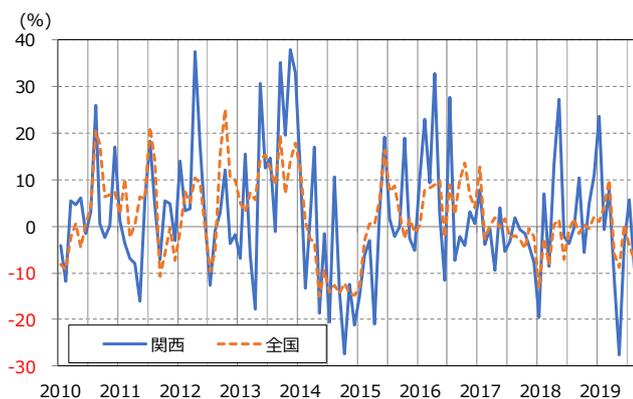
【住宅投資】

(1) 新設住宅着工の動向

関西 8 月の新設住宅着工戸数は 10,737 戸と、前年同月比で-8.8%と 2 カ月ぶりに減少した。利用関係別に見ると、持家以外、貸家と分譲が減少であった。貸家は 4,162 戸で、同-7.1%と 2 カ月ぶりに減少した。分譲は 3,569 戸で同-16.9%と 2 カ月連続で減少した。うち、マンションは 1,724 戸となり、同-27.3%と 2 カ月連続で大幅減少し、全体を押し下げた。一方、持家は 2,982 戸で、同+0.6%と小幅ながら増加した。13 カ月連続のプラス。

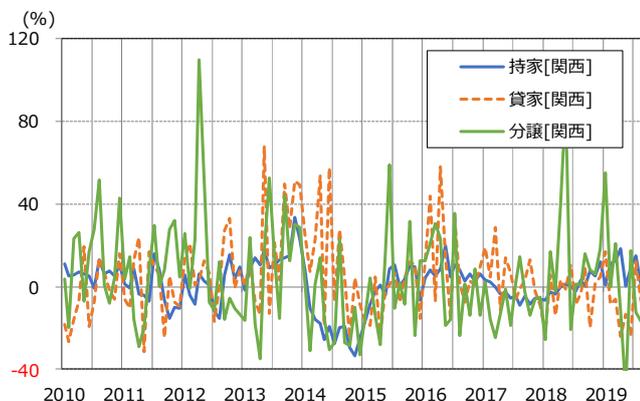
なお、2019 年 1-8 月期の持家は前年同期比+8.5%増加した。前回の増税前の同期間(13 年 7 月-14 年 2 月)では、同+13.7%であるから、今回の消費増税による駆け込み需要の押し上げ効果は限定的と思われる。

新設住宅着工戸数の推移(2010 年 1 月~2019 年 8 月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

新設住宅着工戸数の推移(2010 年 1 月~2019 年 8 月)



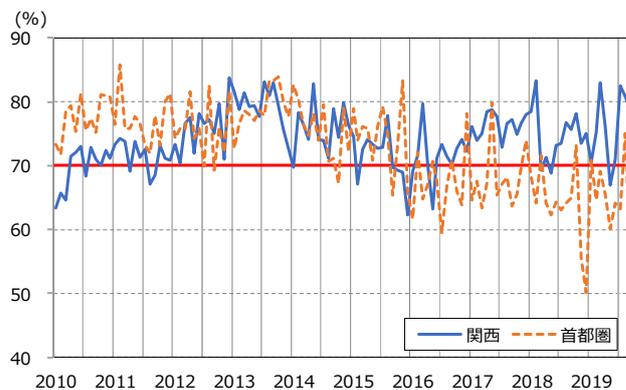
(出所) 国土交通省「建築着工統計」

全国 8 月の新設住宅着工戸数は 76,034 戸となり、前年同月比-7.1%と 2 カ月連続の減少となった。利用関係別に見ると、持家は 24,027 戸(同-1.6%)と 11 カ月ぶりにマイナスに転じ、これまで一部に見られた駆け込み需要が剥落したようである。貸家は 29,255 戸(同-17.5%)と 12 カ月連続で減少し、全体を押し下げた。一方、分譲は 22,517 戸(同+5.6%)と 3 カ月連続の増加。うち、マンションは 10,159 戸(同+11.1%)で、2 カ月ぶりの増加となった。

(2) マンション市場動向

関西 9 月のマンション契約率(売却戸数/発売戸数)は 78.7%(季節調整値: APIR 推計)と、前月から-2.1%ポイント減少し、2 カ月連続のマイナス。しかし、好不況の境目である 70%を 4 カ月連続で上回った。契約率を地域別にみると、和歌山県(100%)、奈良県(100%)、大阪市部(80.1%)が高水準を記録し、発売戸数の多い大阪市部好調であった。一方、京都市部(58.6%)及び滋賀県(60.6%)は低水準であった。

結果、7-9 月期の契約率は 80.7%となり、前期から+9.3%ポイント上昇し、2 四半期ぶりのプラスとなった。また、13 四半期連続で 70%を上回っている。



(出所) 株式会社不動産研究所「マンション市場動向」

同月の首都圏のマンション契約率は 55.4%(季節調整値: APIR 推計)と前月比-19.6%ポイント大幅低下した。2 カ月ぶりの同マイナス。60%を割り込んだのは 2018 年 12 月以来である。結果、7-9 月期の契約率は 64.5%となり、前期から+1.3%ポイント上昇したが、9 四半期連続で 70%を下回って

いる。関西と比べ、関東の価格は割高な面もあり、低水準の契約率が続いている。

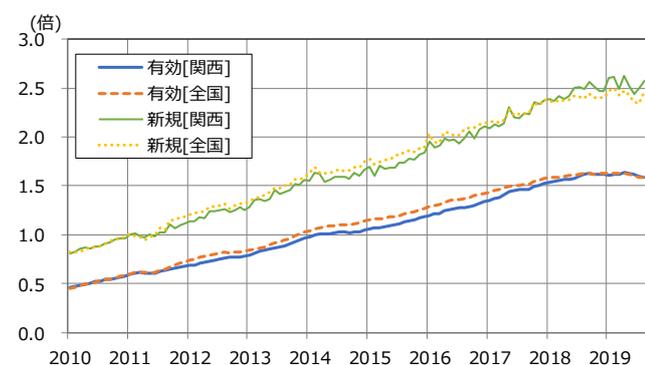
【雇用動向】

(1) 求人倍率の動向

関西 8 月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.59 倍で前月比-0.01 ポイント低下し、4 カ月連続の悪化となった。内訳をみると、有効求人数は同+0.2%で前月の横ばいからプラスに転じ、有効求職者数は同+0.7%で 4 カ月連続の増加。

府県別に見ると、兵庫県が 1.41 倍で前月比横ばい。一方、和歌山県が 1.40 倍で同-0.03 ポイント(3 カ月連続)、奈良県が 1.46 倍で同-0.02 ポイント(2 カ月連続)、滋賀県が 1.35 倍で同-0.01 ポイント(3 カ月ぶり)、京都府が 1.61 倍で同-0.01 ポイント(2 カ月連続)、大阪府が 1.76 倍で同-0.01 ポイント(3 カ月連続)と、それぞれ悪化した。

求人倍率(受理地別)の推移(2010 年 1 月~2019 年 8 月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(下の表も同様)

関西 2 府 4 県有効求人倍率(2019 年 7 月~8 月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
7月	1.59	1.60	1.36	1.62	1.77	1.41	1.48	1.43
8月	1.59	1.59	1.35	1.61	1.76	1.41	1.46	1.40
前月差	0.00	▲ 0.01	▲ 0.01	▲ 0.01	▲ 0.01	0.00	▲ 0.02	▲ 0.03

また、関西 8 月の新規求人倍率は 2.57 倍で前月比+0.07 ポイント上昇し、2 カ月連続で改善。内訳をみると、新規求人数は同+0.4%と 2 カ月連続で増加。新規求職者数は同-2.3%と 2 カ月連続のマイナス。

求人倍率は足下依然悪化傾向にあるが、先行きは改善の兆しがみられる。

全国 8 月の有効求人倍率(季節調整値)は 1.59 倍と前月比横ばい。新規求人倍率は 2.45 倍で同+0.11 ポイント上昇し、4 カ月ぶりに改善した。

(2) 完全失業率の推移

関西 8 月の完全失業率(季節調整値 : APIR 推計)は 2.1%と前月比-0.4%ポイント低下し 3 カ月連続で改善。完全失業者数(季節調整値 : APIR 推計)は 22.4 万人で前月差-4.0 万人と 4 カ月連続で減少した。労働力人口(季節調整値 : APIR 推計)は、前月差+1.1 万人と 2 カ月連続で増加。また、就業者数(季節調整値 : APIR 推計)も同+3.9 万人と 2 カ月連続で増加した。依然、労働需給は引き締まっている。

全国 8 月の完全失業率(季節調整値)は 2.2%と、前月比横ばい。完全失業者数(季節調整値)は 154 万人と同横ばい。理由別では、「非自発的な離職」(36 万人)、「自発的な離職(自己都合)」(68 万人)はいずれも同横ばい、「新たに求職」(33 万人)は同-2 万人減少した。

完全失業率の推移(2010 年 1 月~2019 年 8 月)



(出所)総務省「労働力調査」

【公共投資・建設工事】

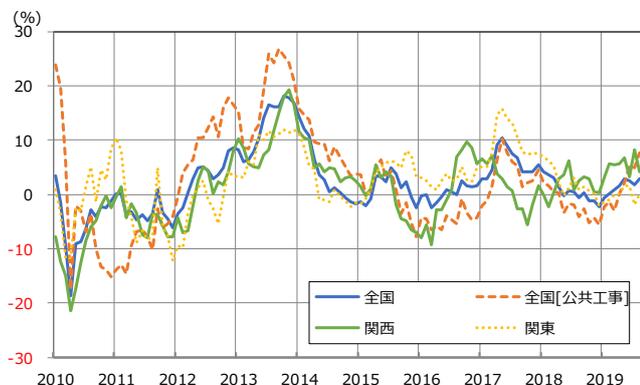
(1) 建設工事

関西 8 月の建設工事出来高は 5,517 億円となり、前年同月比+4.2%と 18 カ月連続で増加した。関東は 1 兆 6,156 億円となり、同+0.2%と小幅ながら 2 カ月ぶりに増加した。

全国 8 月の建設工事出来高は 4 兆 5,746 億円と、前年同月比+2.9%と 7 カ月連続で増加した。うち、民間工事は 2 兆 8,059 億円で同+ 0.0%と、54 カ月連続のプラス。公共工事

は1兆7,688億円で同+7.7%と5カ月連続の増加。19年度本予算(公共工事)の効果があらわれている。

建設工事出来高の推移(2010年1月~2019年8月)



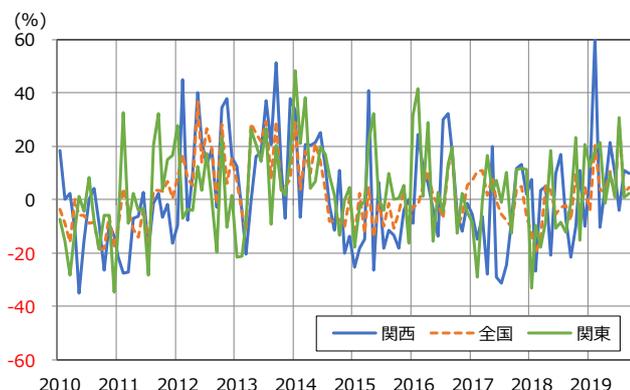
(注) 2016年4月分より新推計に基づく出来高の参考値を反映。(出所)国土交通省「建設総合統計」

(2) 公共工事請負金額

関西9月の公共工事請負金額は1,200億円で前年同月比+9.8%と2カ月連続の増加。一方、季節調整値(APIR推計)でみると、前月比-6.3%と2カ月ぶりの減少となった。工事場所別にみると、増加したのは、兵庫県(同前年同月比+20.0%)、滋賀県(同+17.4%)、和歌山県(同+15.0%)、奈良県(同+5.9%)、京都府(同+1.0%)であった。減少したのは大阪府(同-1.1%)のみであった。

結果、7-9月期の関西の公共工事請負金額は前年同期比+4.6%と3四半期連続で増加したが、季節調整値(APIR推計)は前期比-11.2%と2四半期連続で減少した。

公共工事請負金額(伸び率)の推移(2010年1月~2019年9月)

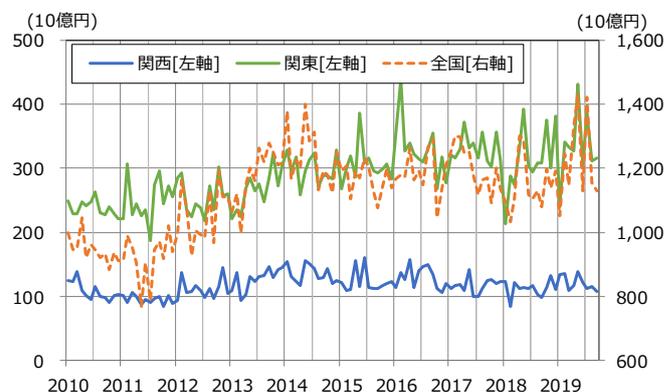


(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

関東は3,464億円で前年同月比+2.5%と5カ月連続の増加。全国は1兆2,751億円で同+4.6%と8カ月連続の増加となった。季節調整値(APIR推計)で見ると、関東は前月比+1.4%と2カ月ぶりの増加、全国は同-2.3%と2カ月連続の減少となった。

結果、7-9月期の関東の公共工事請負金額は前年同期比+11.9%と4四半期連続増加したが、季節調整値(APIR推計)は前期比-4.6%と2四半期ぶりに減少した。全国は前年同期比+12.2%と4四半期連続のプラス。季節調整値(APIR推計)は前期比-4.7%と2四半期ぶりに減少した。今後、台風による被害からの復興事業で公共工事が拡大すると見込まれる。

公共工事請負金額(季調値)の推移(2010年1月~2019年9月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

【関空モニター】

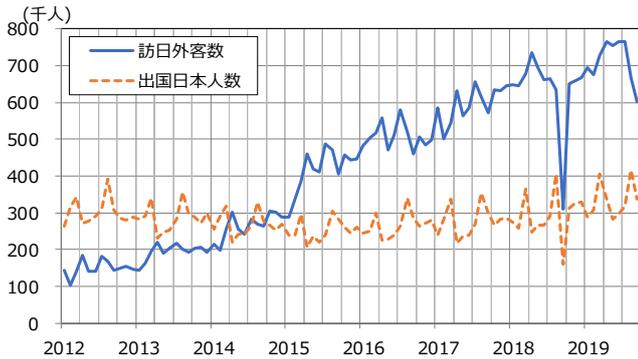
(1) 訪日外客数トレンド

9月の関空への外国人入国者数は60万320人となり、伸びは前年同月比+93.5%と12カ月連続のプラス。昨年の台風の影響が剥落したようである(17年比+5.1%)。日韓関係の悪化による航空路線の運休・減便の影響には引き続き注視していく必要がある。

また、外国人出国者数は56万730人と同+118.9%で11カ月連続の増加。結果、外国人出入国者数は116万1,050人で同+105.0%と12カ月連続の増加となった。

日本人出国者数は33万7,270人で、前年同月比+112.4%と12カ月連続で増加した。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2012年1月～2019年9月)

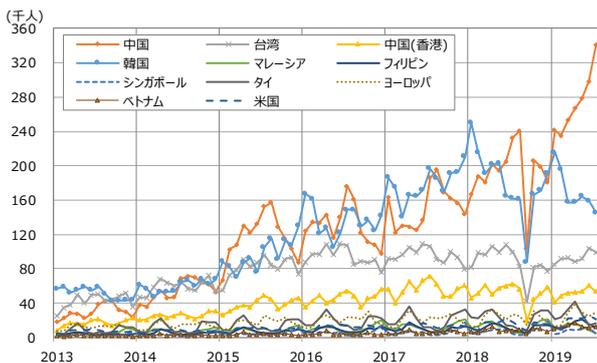


(出所) 一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

(2) 地域別訪日外客数

7月の関西訪日外客数を国籍別・地域別にみると、中国(香港除く)からの入国者が34万586人(前年同月比+46.3%)と最多であった。次いで、韓国が14万5,075人(同-10.3%)、台湾が9万9,269人(同+0.4%)、香港が5万3,365人(同-14.5%)であった。中国は10カ月連続の前年比増加、台湾は6か月ぶりの増加だが、香港は2か月ぶり、韓国は14カ月連続で前年比減少した。香港は社会情勢への不安により、韓国は日韓関係悪化により、訪日外客数の減少幅が拡大しつつあるようである。

地域別訪日外客数(2019年7月まで)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

他のアジア各国は、タイが1万5,810人(前年同月比+27.6%)、ベトナムが1万2,214人(同+53.7%)、フィリピンが1万1,628人(同+65.2%)、マレーシアが4,669人(同-17.2%)、シンガポールが4,098人(同+21.8%)、であった。フィリピンは6カ月連続、ベトナムは10カ月連続二桁

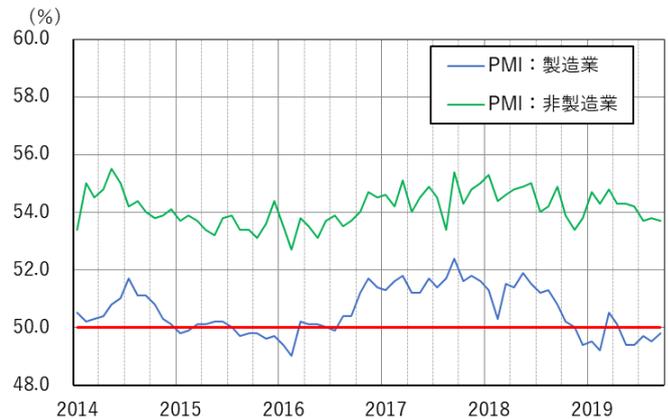
の伸びで、依然堅調である。アジア以外の他地域を見ると、欧州全体では2万9,168人(同+11.9%)、米国が2万701人(同+15.4%)であった。欧州全体は4カ月連続で、米国は10カ月連続で、二桁の伸びが続いており好調である。

【中国景気モニター】

(1) センチメント

9月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は49.8となり、前月比+0.3%ポイント上昇した。2カ月ぶりの改善だが、5カ月連続で景気分岐点(50)を下回った。非製造業 PMI は53.7となり、同-0.1%ポイント下落し、2カ月ぶりの悪化。

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2014年1月～2019年9月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

製造業購買担当者景況指数(2014年1月～2019年9月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

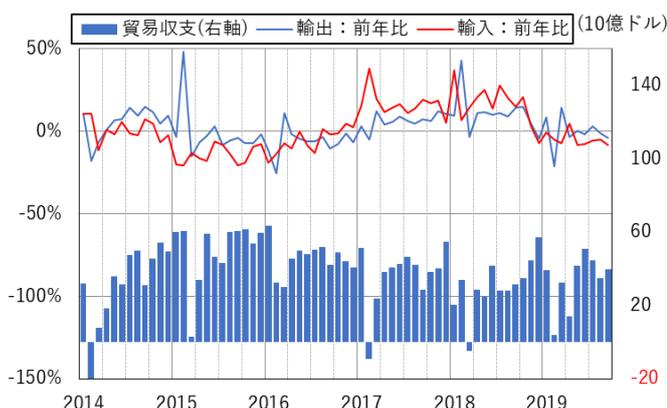
製造業 PMI のうち、生産指数は52.3 と前月から+0.4%ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。輸出新規受注指数は48.2

と同+1.0%ポイント上昇し、3 カ月連続の改善。米国の制裁関税(3 月公表、7 月から実施)の影響を受け、18 年6 月以降16 カ月連続で50 を下回った。雇用指数は47.0 と同+0.1%ポイント上昇したが、30 カ月連続で50 を下回った。

(2) 貿易動向

9 月の貿易収支は396.5 億ドルで18 カ月連続の黒字となった。輸出額(速報値, ドル・ベース)は2,181.2 億ドル、前年同月比-3.8%と2 カ月連続の減少。輸入額は1,784.7 億ドル、同-8.5%と5 カ月連続で減少した。なお、貿易総額(輸出+輸入)は同-5.9%減少し、5 カ月連続のマイナスとなった。依然、貿易活動は収縮している。

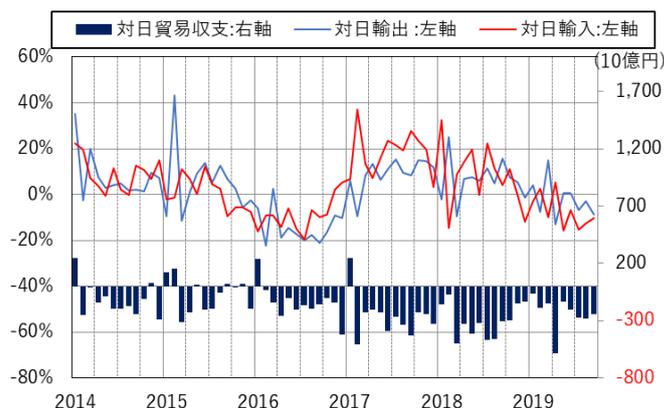
中国の貿易動向(ドル・ベース, 2014 年1 月~2019 年9 月)



(出所)中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

また、対日貿易収支は-23.0 億ドルとなり、32 カ月連続の赤字となった。対日輸出額は128.6 億ドルとなり、前年同月比-5.0%と2 カ月ぶりの減少。対日輸入額は151.6 億ドルとなり、同-6.7%で5 カ月連続の減少。なお、円ベースでみると、対日輸出額は同-8.8%と3 カ月連続の減少。また、対日輸入額は同-10.4%と5 カ月連続の減少である。

日本との貿易(円ベース, 2014 年1 月~2019 年9 月)

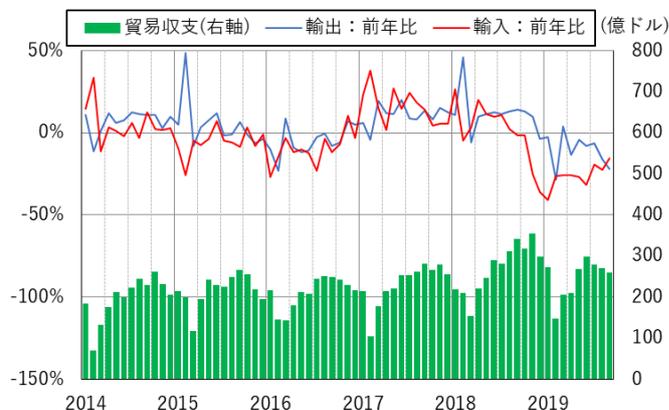


(出所)中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

[対米貿易]

9 月の中国の対米貿易黒字は258.8 億ドル(前月:269.6 億ドル)となり、前年同月比-24.2%縮小した。3 カ月連続のマイナス。同月の対米輸出額は364.7 億ドルと同-21.9%で、6 カ月連続の減少。また、対米輸入額は105.9 億ドルとなり、同-15.7%と13 カ月連続の減少であった。

対米輸出入の動向(2014 年1 月~2019 年9 月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

10 月11 日ワシントンで行われた第13 回米中貿易協議において、農産物や為替を含む一部の分野で合意に達した(「第1 段階合意」)。今回の協議において、中国側は①米国農産物購入の拡大(年間400~500 億ドル)と。②意図的な通貨安誘導を控えることと。③知的財産権保護の強化、金融分野市場の開放などを提示し、米国側は、①15 日予定の中国から輸入品2500 億ドル分への制裁関税引き上げ(25%→30%)を見送り

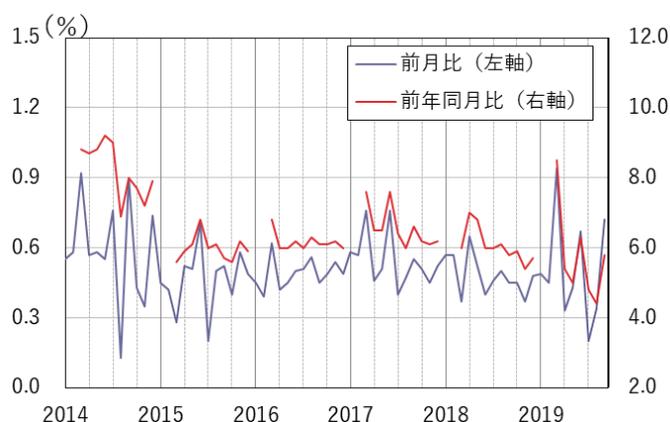
と、②為替操作国認定を外すかを再検討することを表明した。また、11月のAPEC首脳会議に習近平主席とトランプ大統領の会談することを確認したが、過剰な産業補助金、国有企業の優遇およびファーウェイへの禁輸措置緩和などについて今回の協議は触れなかった。

(3) 工業生産

9月の工業生産は前月比+0.72%上昇し、伸びは前月から+0.38%ポイント加速した。また、前年同月比+5.8%上昇し、前月から+1.4%ポイント加速した。

産業別に見ると、電気機械・機材製造業（前年同月比+12.1%）、パソコン・通信設備製造業（同+11.4%）、鉄鋼などの製錬・圧延加工業（同+9.5%）などが高い伸びを示す一方、金属製品製造業（同+2.6%）、繊維工業（同+0.6%）、自動車製造業（同+0.5%）などは比較的低調な伸びにとどまった。また、農業副食品加工業は同-1.2%減産した。

工業生産指数(2014年1月～2019年9月)



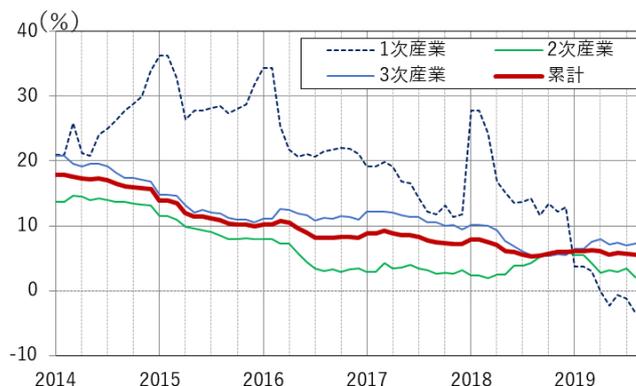
(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(4) 固定資産投資

1-9月期の累積固定資産投資(名目)は前年同期比+5.4%となり、1-8月期から-0.1%ポイント低下している。

産業別に見れば、第1次産業は前年比-2.1%減少し、伸びは前月から+1.3%ポイント上昇した。第2次産業は同+2.0%と前月から-0.1%ポイント下落した。第3次産業は同+7.2%で、伸びは前月から-0.1%ポイント下落した。

固定資産投資(産業別)累積伸び率(2014年1月～2019年9月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

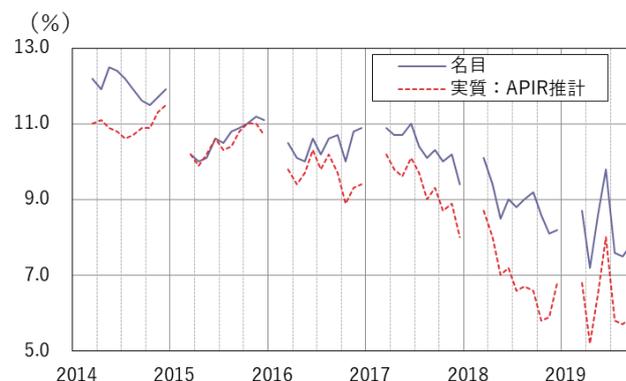
(5) 消費

9月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比+7.8%となり、伸びは前月から+0.3%ポイント上昇した。また、社会消費品小売総額の実質値(APIR推計)をみると、伸びは同+5.9%と前月から+0.2%ポイント上昇した。

都市部の社会消費品小売総額の前年同月比は+7.5%となり、伸びは前月から+0.3%ポイント上昇した(3カ月ぶりの加速)。農村部の社会消費品小売総額は同+9.0%となり、伸びは前月より+0.1%ポイント上昇した(2カ月連続の加速)。

9月の電子商取引の社会消費品小売総額は8,844億元で、前年同月比は+16.5%と、伸びは前月より+1.7%ポイント上昇し、2カ月連続の加速であった。

社会消費品小売総額(2014年1月～2019年9月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(6) 物価水準

9月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+3.0%で、前月から+0.2%ポイント上昇した。うち、食品価格は同+11.2%上昇し、CPIへの寄与度は+2.21%ポイントであった。食料品のうち、肉類価格の大幅上昇が見られている。豚肉価格は同+69.3%上昇、CPIへの寄与度は+1.65%ポイントであった。また、牛肉、羊肉、鶏肉、鴨肉とたまご価格は+9.4%~+18.8%の上昇となっており、果物価格は+7.7%上昇した。上記6品目の合計でCPIを+0.49%ポイント引き上げた。一方、野菜価格は同-11.8%下落し、CPIへの寄与度は-0.33%ポイントであった。

消費者物価指数・生産者物価指数(2014年1月~2019年9月)



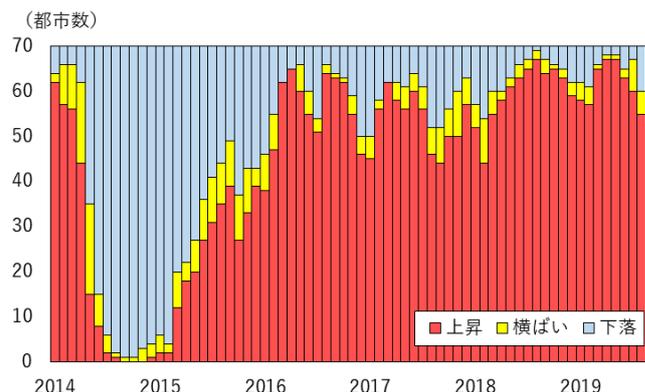
(出所)中国国家统计局; CEICデータベース

また、生産者物価指数(PPI)は、前年同月比-1.2%と3カ月連続のマイナス。伸びは前月から-0.4%ポイント縮小し、5カ月連続の減速となった。うち、生産財(生産資料)価格は同-2.0%下落し、前月から-0.7%ポイント減速した。消費財(生活資料)価格は同+1.1%上昇し、前月から+0.4%ポイント加速した。

(7) 不動産市場

9月の不動産市場は、低迷する状態が続いている。不動産価格(新築住宅価格)をみると、中国主要70都市のうち、住宅価格が上昇した都市数は53で前月から2都市減少した(4カ月連続)。一方、下落した都市数は12で前月から2都市増加(2カ月連続)。また、横ばいの都市数は5で前月と横ばい。

新築住宅価格の主要都市集計(2014年1月~2019年9月)



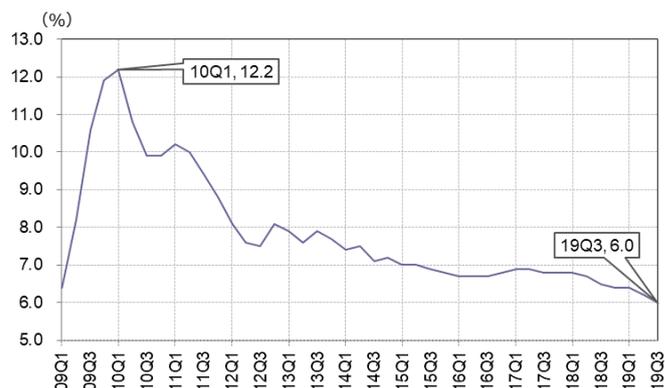
(出所)中国国家统计局; CEICデータベース

(8) GDP

7-9月期の実質GDP成長率は前年同期比+6.0%で、4-6月期から-0.2%減速した。一方、前期比は+1.5%で、4-6月期より-0.1%減速した。

産業別に見ると、同期の第1次産業の成長率は前年同期比+2.7%と伸びは前期から-0.6%ポイント低下し、2四半期ぶりの減速。第2次産業は同+5.2%で前期から-0.4%ポイント下落し、2四半期連続の減速。第3次産業は同+7.2%となり、前期から+0.2%ポイント上昇し、4四半期ぶりの加速であった。米中貿易摩擦の影響もあり、輸出製造業は低迷したが、内需を中心とする第3次産業は持ち直した。

実質GDP成長率の推移(2009年Q1~2019年Q3)



(出所)中国国家统计局; CEICデータベース

Contact : 野村亮輔

Tel. 06-6485-7694

E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月次統計	18/9M	18/10M	18/11M	18/12M	19/1M	19/2M	19/3M	19/4M	19/5M	19/6M	19/7M	19/8M	19/9M
景 況 感													
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	49.0	51.3	50.8	49.9	45.4	48.0	47.0	47.2	45.1	45.0	43.8	45.3	50.4
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	52.2	51.9	53.1	47.4	50.7	50.4	50.6	51.0	47.5	49.8	46.3	42.3	37.2
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	48.3	48.6	49.5	46.8	45.6	47.5	44.8	45.3	44.1	44.0	41.2	42.8	46.7
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	51.0	50.0	50.8	47.9	49.4	48.9	48.6	48.4	45.6	45.8	44.3	39.7	36.9
消 費 者 心 理 ・ 小 売													
[関西]消費者態度指数(原数値)	42.7	42.6	42.4	42.5	41.8	40.6	40.1	40.0	39.5	39.0	38.2	36.9	35.7
[関西]「暮らし向き」(原数値)	39.6	40.5	40.3	40.6	40.2	38.1	37.2	37.3	37.1	36.9	36.4	35.5	33.8
[関西]「収入の増え方」(原数値)	41.8	40.8	40.9	40.6	40.8	39.8	39.2	39.3	40.0	39.7	39.6	39.6	38.9
[関西]「雇用環境」(原数値)	47.1	46.6	46.4	46.0	44.1	44.1	44.0	44.2	43.2	43.4	42.0	41.1	41.8
[関西]「耐久消費財の買い時判断」(原数値)	42.2	42.3	42.0	42.6	41.9	40.5	39.8	39.0	37.5	35.8	34.7	31.3	28.1
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	43.3	42.9	42.8	42.6	41.8	41.5	40.5	40.4	39.4	38.7	37.8	37.1	35.6
[関西]大型小売店販売額(10億円)	287.8	310.5	321.4	407.1	321.5	282.5	317.7	302.5	304.1	308.1	319.6	307.2	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	-2.0	0.1	-2.4	-0.8	-3.4	-1.3	0.2	-0.8	0.4	0.5	-3.4	0.8	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,513.5	1,586.2	1,643.7	2,082.5	1,632.2	1,434.5	1,654.4	1,535.4	1,563.1	1,597.7	1,624.2	1,589.7	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	1.1	-0.2	-1.7	-0.5	-3.0	-1.5	1.0	-1.4	-0.2	-0.3	-4.5	0.9	UN
住 宅 ・ 建 設													
[関西]新設住宅着工(戸数)	12,545	11,496	12,329	11,360	11,371	11,310	11,626	11,897	10,253	11,318	12,849	10,737	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比%)	10.5	-5.5	4.8	11.1	23.7	-0.7	7.8	-11.2	-27.5	-3.6	5.7	-8.8	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	81,903	83,330	84,213	78,364	67,087	71,966	76,558	79,389	72,581	81,541	79,232	76,034	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比%)	-1.5	0.3	-0.6	2.1	1.1	4.2	10.0	-5.7	-8.7	0.3	-4.1	-7.1	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	75.7	78.2	73.6	75.1	70.5	75.2	83.0	76.1	67.0	70.9	82.5	80.9	78.7
[関西]マンション契約率(原数値)	72.8	77.7	74.4	72.1	70.2	75.8	80.6	75.9	67.7	73.3	83.1	84.9	75.7
[首都圏]マンション契約率(季節調整値)	64.9	73.1	55.5	50.2	70.8	64.6	69.2	65.5	60.1	64.2	63.2	75.0	55.4
[首都圏]マンション契約率(原数値)	66.5	68.3	53.9	49.4	67.5	65.5	72.2	64.3	60.0	65.9	67.9	75.4	56.8
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	109.3	116.9	94.7	88.0	71.4	80.0	109.3	220.6	141.5	147.1	135.3	106.0	120.0
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比%)	-21.6	-10.0	10.9	-9.8	9.1	60.5	-10.5	4.2	21.6	9.4	-4.0	11.1	9.8
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	1,218.6	1,282.3	818.9	834.0	585.3	739.0	1,316.5	2,232.9	1,420.4	1,447.9	1,609.1	1,149.3	1,275.1
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比%)	-7.6	9.5	-5.2	4.6	-4.1	20.4	3.7	2.5	10.5	1.0	28.5	2.2	4.6
[関西]建設工事(総合、10億円)	554.3	564.2	589.8	610.4	607.9	602.7	589.7	511.8	514.7	530.2	545.8	551.7	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比%)	3.3	3.0	0.5	0.2	3.0	5.7	5.6	5.6	6.7	3.3	8.1	4.2	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4,705.1	4,850.7	4,915.6	4,945.3	4,897.0	4,811.8	4,790.7	4,023.6	4,002.9	4,231.1	4,343.4	4,574.6	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比%)	0.3	-1.1	-1.1	-2.2	-0.7	0.1	0.8	1.6	2.8	2.6	1.9	2.9	UN
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	1,826.6	1,938.5	1,996.5	2,042.5	2,047.5	2,013.0	1,985.8	1,456.7	1,410.4	1,558.4	1,616.2	1,768.8	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比%)	-2.6	-5.2	-4.2	-5.6	-2.3	-1.4	-3.0	0.1	2.1	5.3	4.9	7.7	UN
生 産													
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	103.4	106.5	104.5	103.9	102.5	102.4	99.6	101.3	102.5	100.0	104.7	100.8	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	-0.9	3.0	-1.9	-0.6	-1.3	-0.1	-2.7	1.7	1.2	-2.4	4.7	-3.7	UN
[関西]出荷指数(原数値、前年同月比%)	-3.4	8.3	1.2	-3.2	-0.2	-3.9	-7.0	-3.6	-4.2	-7.3	2.7	-7.0	UN
[関西]在庫指数(原数値、前年同月比%)	0.1	-4.0	-2.8	-1.7	-2.8	-1.3	-0.2	0.4	0.3	5.6	6.6	8.2	UN
[関西]出荷指数(季節調整値、10年=100)	102.8	109.2	104.1	103.1	103.0	100.6	99.7	100.6	102.8	97.9	104.2	100.4	UN
[関西]出荷指数(季節調整値、前月比)	-2.1	6.2	-4.7	-1.0	-0.1	-2.3	-0.9	0.9	2.2	-4.8	6.4	-3.6	UN
[関西]在庫指数(季節調整値、10年=100)	98.8	98.8	99.0	100.1	98.6	100.0	101.8	102.0	101.0	105.0	105.0	105.7	UN
[関西]在庫指数(季節調整値、前月比)	1.1	0.0	0.2	1.1	-1.5	1.4	1.8	0.2	-1.0	4.0	0.0	0.7	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	103.5	105.6	104.6	104.7	102.1	102.8	102.2	102.8	104.9	101.4	102.7	101.5	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	-0.1	2.0	-0.9	0.1	-2.5	0.7	-0.6	0.6	2.0	-3.3	1.3	-1.2	UN
[全国]出荷指数(原数値、前年同月比%)	-2.9	5.7	1.1	-3.1	-0.1	-0.3	-4.0	-1.4	-1.8	-4.9	1.9	-4.5	UN
[全国]在庫指数(原数値、前年同月比%)	3.5	-0.9	0.4	1.7	1.2	1.4	0.2	1.2	1.5	3.0	2.5	2.6	UN
[全国]出荷指数(季節調整値、10年=100)	102.1	104.4	102.8	103.1	100.6	102.2	100.9	102.7	104.0	99.8	102.5	101.2	UN
[全国]出荷指数(季節調整値、前月比)	-0.9	2.3	-1.5	0.3	-2.4	1.6	-1.3	1.8	1.3	-4.0	2.7	-1.3	UN
[全国]在庫指数(季節調整値、10年=100)	102.0	101.5	101.6	102.9	102.0	102.4	103.8	103.8	104.3	104.7	104.5	104.4	UN
[全国]在庫指数(季節調整値、前月比)	0.2	-0.5	0.1	1.3	-0.9	0.4	1.4	0.0	0.5	0.4	-0.2	-0.1	UN
労 働													
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	-1.1	0.4	2.0	-1.7	1.0	0.1	-2.1	-0.1	0.0	-1.2	UN	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比%)	-0.6	0.9	2.6	-1.3	1.3	0.7	-2.0	0.4	0.2	-1.3	0.4	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比%)	0.7	1.1	1.7	1.5	-0.6	-0.7	-1.3	-0.3	-0.5	0.4	-1.0	-0.1	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	2.8	3.0	3.4	2.9	2.8	2.6	2.8	2.8	2.9	2.7	2.4	2.1	UN
[関西]完全失業率(原数値)	3.1	3.0	3.1	2.6	2.7	2.7	2.8	2.7	2.8	2.8	2.6	2.2	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	2.4	2.4	2.5	2.4	2.5	2.3	2.5	2.4	2.4	2.3	2.2	2.2	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	2.56	2.51	2.47	2.47	2.60	2.61	2.49	2.62	2.52	2.44	2.50	2.57	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	2.44	2.40	2.40	2.40	2.48	2.50	2.42	2.48	2.43	2.36	2.34	2.45	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.63	1.62	1.62	1.62	1.61	1.62	1.62	1.64	1.63	1.62	1.60	1.59	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.63	1.62	1.63	1.63	1.63	1.63	1.63	1.63	1.62	1.61	1.59	1.59	UN
国 際 貿 易													
[関西]純輸出(10億円)	177.5	113.4	19.1	178.9	-184.6	213.8	273.5	101.0	-9.4	269.9	69.1	121.0	201.1
[関西]輸出(10億円)	1,110.1	1,517.2	1,504.9	1,474.8	1,179.9	1,320.0	1,500.1	1,354.5	1,250.9	1,350.3	1,410.2	1,321.5	1,415.1
[関西]輸出(前年同月比%)	-25.1	6.4	-1.0	-7.2	-8.9	-1.9	-6.3	-5.7	-10.4	-10.9	-1.7	-12.9	27.5
[関西]輸入(10億円)	932.6	1,403.8	1,485.9	1,295.9	1,364.5	1,106.2	1,226.6	1,253.5	1,260.3	1,080.4	1,341.1	1,200.5	1,214.0
[関西]輸入(前年同月比%)	-24.3	10.9	9.5	-2.8	0.1	-9.8	-1.4	3.6	-5.1	-13.8	-0.6	-10.5	30.2

注：鉱工業生産 輸送機械工業は銅船・鉄道車両除く。

Release Calendar for September/October

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
30-Sep 商業動態統計 (8月:速報値) 全国鉱工業生産指数 (8月:速報値) 建築着工統計調査 (8月) 中国製造業 PMI (9月)	1-Oct 労働力調査 (8月) 一般職業紹介状況 (8月)	2-Oct 消費動向調査 (9月)	3-Oct	4-Oct
7-Oct 百貨店・スーパー販売 状況(8月:速報値)	8-Oct 景気ウォッチャー調査 (9月) 毎月勤労統計調査 (8月:速報値)	9-Oct 近畿地域 鉱工業生産動向 (8月速報)	10-Oct 近畿圏貿易概況 (7月:確報値) 近畿圏貿易概況 (8月:確・速)	11-Oct
14-Oct 体育の日 中国輸出入 (9月:速報値)	15-Oct 全国鉱工業生産指数 (8月:確報値) 商業動態統計 (8月:確報値) 公共工事前払保証額 統計(9月) 中国 CPI&PPI (9月)	16-Oct	17-Oct 建設総合統計(8月) マンション市場動向 (9月)	18-Oct 中国固定資産投資 (9月) 中国工業生産 (9月) 中国消費小売総額 (9月) 7-9月期中国 GDP
21-Oct 出入国者数(9月) * 全国貿易統計 (9月:速報) 近畿圏貿易概況 (9月速報) 中国不動産市場 (9月)	22-Oct 即位礼正殿の儀の行わ れる日	23-Oct 毎月勤労統計調査 (8月:確報値) 中国輸出入 (9月:確定値)	24-Oct	25-Oct 出入国管理統計(8月)
28-Oct	29-Oct	30-Oct 全国貿易統計 (8月:確報値) 全国貿易統計 (9月:確・速) 商業動態統計 (9月:速報値)	31-Oct 全国鉱工業生産指数 (9月:速報値) 消費動向調査 (10月) 建築着工統計調査 (9月)	1-Nov 労働力調査 (9月) 一般職業紹介状況 (9月)

*印は発表予定日が未定。 **公表日は翌日。